

令和7年度 市長と伊東市保育園父母の会連合会との懇談会記録（要旨）

令和8年1月22日（木）

午後7時～8時30分

市役所8階大会議室

秘書広報課長：それでは定刻となりましたので、ただいまより令和7年度市長と伊東市保育園父母の会連合会の皆様との懇談会を開会いたします。初めに、市長よりご挨拶を申し上げます。

市長：こんばんは。本日は、お忙しい中お集まりくださいまして、本当にありがとうございます。今日のこの会が皆様にとっても我々にとっても、前向きに進められる、そんな会になればと思っていますので、少しの時間ではありますが、どうぞよろしく願いいたします。

秘書広報課長：続きまして、伊東市保育園父母の会連合会の会長様よりご挨拶をいただきます。

会長：本日は、伊東市保育園父母の会連合会の要望に応じ、市長との懇談会を開催していただき、誠にありがとうございます。また、ご出席くださった連合会所属園の会長・副会長の皆様も、お忙しい中ご都合をつけていただきありがとうございました。全てのご家庭の要望を集められるわけではありませんが、伊東市で育つ全ての子どもたちやご家庭に思いを馳せて、意見を述べさせていただきたいと思います。また、要望の中には国や県が所管するものもあると思います。ぜひ国や県とも連携を深めて、住みよい伊東市を作り上げていただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

秘書広報課長：ありがとうございました。それでは、早速懇談に入らせていただきます。連合会の皆様からご発言をお願いいたします。

会長：経済的支援については国や県のものが多いですが、ぜひ働きかけをしてほしいと思います。育児中は母親の収入が特に増えづらく、育児グッズと呼ばれるものの負担もとても大きいです。育児グッズというと、育児を楽にするための便利グッズと捉えられがちですが、昨今の子育て事情を考えると、もはや必需品のものもかなり多いと思います。例えば、3歳未満児の保育料や給食費の無償化などで家計を助けるとともに、様々な経済支援を併せて行って、子どもの安全かつ健やかな成長を守り抜く社会を作っていってほしいと思います。また、子育て優待カードというものがありますが、子育てならでの、このカードがあるからこそとい

うお得感が出せるととてもいいと思います。結局、他の観光の割引券などと変わらないものや、併用できないものがとても多いと思います。これは県の事業だと思いますが、アプリの検索が結構重いのと、店舗名と特典内容が見やすすくない状態なので、改善の要望を出していただければと思います。

市長：ご提案とご要望ありがとうございました。子育て優待カードについては県の事業ですので、今日いただいたご意見はしっかり伝えて、改善できるように働きかけていきたいと思っています。経済的支援につきましては、できる限り公約で掲げたことを実現できるように、新年度の予算を組んでいます。財源の問題もあり、全てが初年度にできるというわけではありませんが、今検討している事業の一つとしましては、3歳までのお子さんについて、オムツや育児用品の購入に対する給付を検討しています。また、子育て世帯の皆様に限りませんが、物価が上がっている一方で、手取りはなかなか増えないという状況の中で、何かできないかと考えているのは、先日議会でも承認をいただきましたが、主食であるお米を買いやすくするというので、まず一人5,000円の現金給付を行うということと、プレミアム付商品券事業を後追いで行うということです。さらには、今後、通学費や保育料の無償化についても調査研究をして、できることからやっっていこうと話を進めているところです。時間がかかるものもありますが、全庁を挙げて取り組んでいるところでありますので、もう少しお時間をいただければと思いますし、また今日この場でご意見をいただけるとすごくありがたいです。

富士見保育園：保育園に係る費用負担の軽減についてですが、3歳から5歳児は保育料が無償化になっていて、5歳児は給食費も無償化ということで、大変助かっています。ただ、0歳から2歳児までの保育料や3歳から4歳児の給食費はまだかかっている状態になります。東部の自治体では無償化に取り組まれているところもありますので、伊東市でもぜひ検討していただけたらと思います。

市長：私もぜひやりたいと思っております、検討を始めております。ただ、財政的なお話をしますと、今年度、税収の伸びが良くないということで、選挙も2回ほど追加がありましたので、その分のしわ寄せが来ているということもあります。そうは言っても、現役世代の負担を減らしていくという観点から言えば、0歳児から保育料を無償化すべきだという考えは変わりませんので、何とか実現できるように一步一步進んでまいります。

玖須美保育園：ベビーシッターについて、シッターの数は足りているのでしょうか。申

請から面談までにかかる期間や、申請時の作業量が事前に見えると思えば使いやすいと思います。また、キャンセル待ちや空き情報も登録前からインターネット等で分かると、使ってみようと思えると思います。何年も要望が上がっていますが、対応がなされれば、来年から要望しなくて済むと思います。

市長：ベビーシッターは本当に必要だと私も思っています。私事ですが、私の妻は沼津市から伊東市に来ておりまして、妻の両親は2人とも亡くなっています。私もこのような職に就きましたので、家に帰るのが遅い時間になりまして、妻に申し訳ないと思いながら業務をこなしています。そうした中で、ベビーシッターがいれば、伊東市に来て安心して子育てができるかと移住もどんどん進むかと思えます。ベビーシッターの確保、そしてまた利用時の補助金をとということで、今もファミリーサポートセンター事業はあるのですが、一時預かりを利用するのと比べると金額が違うということで、こちらも検討するように指示をしております。ベビーシッターをより多くの方に使っていただけるように、しっかり確保できるような取組を行っていきたいと思います。

さくら園：ベビーシッターは必要だということですが、キャンセル待ちの有無や空き状況が事前に分かるような取組に関してはどのようにお考えでしょうか。

市長：スマートフォンでできるようになれば一番良いので、そういう方法がないか研究をしているところです。これに限らず、デジタル化が進んでいないことが課題だと思っています。先程お話しました一時預かりについても、毎月申請書を紙で出さなければいけなかったり、空き状況も直接聞かなければ分からなかったりするので、やはりデジタル化は、市役所全体でしっかり進めていきたいと思っています。また、こういうものがあるといいということがあればぜひ教えていただければ、より早く進められると思いますので、ご協力よろしく申し上げます。

富士見保育園：子育てに優しい企業を増やす対策ですが、私自身も働いていて、子どもの急な発熱などで休む時に、休みづらいのが現状です。伊東市はベビーファースト宣言を行ったということですが、何か変わったことはありますか。

市長：ベビーファースト宣言は、私が議員だった時に市に協力をお願いしました。私は当時青年会議所に入っていて、青年会議所が社会全体で子どもたちに優しい、子育てしやすい環境を作るために、企業として何か取組ができないかということで始まったもので、市としてもぜひ宣言してくださいとお願いしたところ、当時の市長が快諾してくださいました。本

来であれば、その後に、市内の企業に対して働きかけができればよかったのですが、なかなかそこが進んでいなかったということでもあります。この子育てに優しい活動を、市内全体に波及できるようにしていきたいと思っています。そのきっかけの一つになるかどうか分かりませんが、私としては、伊東市は観光地で多くの方にご来遊いただきますので、小さいお子さん、そしてお父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃんに選んでいただける、そういった観光地作りをしていくということが、裏を返せば市民の皆さんにとっても子育てしやすい環境になると考えています。あらゆる側面から、子育てしやすい環境作りをしていきたいと思っておりますので、ぜひご協力をいただければと思います。

富士見保育園：安心して子どもが医療機関にかかれる体制の整備についてですが、現在10か所の医療機関で小児科診療が可能ということですが、小児科の専門医が少ないのではないかと思います。難しいとは思いますが、小児科の専門医を増やしていただきたいと思います。

市長：本当にそうだと思います。伊東市には10か所ありますが、夜間など緊急の対応でお困りになるケースが多いかと思います。その受け皿の一つとして、伊東市民病院が皆さんから信頼される病院として、万が一の時も安心していただけるように、小児科や産婦人科など、採算が取れないところもしっかりと守れるようにしています。昨日もちょうど管理者の方とお話する機会がありまして、お願いをしたところです。また、市内でも、小児科を大切にしたいという先生がいらっしやいまして、今度伊東駅のところにクリニックを開設すると聞いていますので、そういった方を1人でも多く増やしていくというのが行政の役割だと思います。そこはしっかりと支援をしていきたいと思っておりますので、よろしくお祈りします。

広野保育園：病児・病後保育事業の充実についてですが、現在は川奈臨海保育園のみで、1日に預かれる人数も少なく、すごく困っています。私も一度利用したことがありますが、保育士の方にとっても良くしてもらいました。このような施設が増えてくれると仕事を休まなくてもよくなります。お母さんたちの不安が一つ減ると思いますので、今後、増設される場合は通いやすい場所を検討していただきたいと思います。

市長：本当にそうですよね。この病児の保育事業は非常に重要になりますので、こういった部分に光を当てていくのが本来公立の役割の一つだと思います。私立と公立で役割分担をしていった中で、しっかりとサポートできるような公立保育園を作っていきたいと思っておりますし、その場所についても、通いやすいところというのは常に考えながら事業を計画して

実施していきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

会長：各種支援や施策に関して、私から総括させていただきます。子どもの急病や保育園に復帰できるまでのお休みの期間は長くかかります。症状が治まるまでは家庭保育をしてくださいということで、1週間、2週間保育園に行けないという話を私も身近で聞いています。子どもの健康な生活リズムを確保しなければいけないので、無理して登園させようということではないのですが、そういうことに配慮して勤務をさせてくれる企業が増えてくれれば、子どもに過度な負担になるような、延長保育や病後保育をさせなくて済むと思いますので、まちづくりの大きなカテゴリーとしても捉えていただけたら嬉しいです。

市長：そうですね。企業側の協力というのも非常に重要になってくると思います。行政がやれることとして、そういった企業を財政的な部分も含めて支援していくこと、また行政が率先してそういった環境を実践していくことで、市内全体、まち全体で子どもたちを支えて育てていくという風土を作っていくことが非常に重要だと思っていますので、あらゆる手段を使ってそういったまちにしていきたいと思います。

さくら園：専門医の確保についてですが、障がいを持った子どもの専門医となると、山を越えて伊豆医療福祉センターや国際医療福祉大学熱海病院になり、市内にはないというのが現状です。一方で特別支援学校の分校は市内にあります。熱海と伊東の間でちぐはぐさが生まれていると思います。そういったものが市内で集約されれば、障がいのある子も含めて安心して暮らしていけるのではないかと思いますので、そういった取組も考えていただけたらと思います。

市長：そうですね。専門医の方が伊東市に来て、長く診療していただける環境作りをしていく必要がありますので、私もトップセールスで関係各所を回って、人材確保に努めていきたいと思います。

さくら園：医療的ケア児のためのサービスの拡充についてですが、特別な配慮が必要な子がさくら園に入園できているか、漏れていることはないかというのが心配です。子どもを伊豆医療福祉センターに通わせていて、身体的に重度の障がいがあるお子さんを見かけます。さくら園のような施設に通えているのか、親が自宅で頑張って付きっきりで見ているかもしれないと思うと、そういったお子さんを漏れないように支援できる取組が必要なかもしれないと感じました。

市長：確かにおっしゃるとおり、そういった心配があるということで、最近力を入れ始めましたが、伊東市は生まれてから伴走型の育児相談を行っており、家庭訪問も含めて、保健師等が寄り添って支援し、発育に心配

事がある方がいればしっかりと専門的機関につないでいくということに力を入れて、前向きに取り組んでいるところであります。本来手が差し伸べられなければいけない方が制度の網からこぼれてしまう、そういった環境は絶対に防いでいこうと取組を始めています。そういったケースがもしお近くでございましたら、ぜひおつなぎいただけましたら、我々がしっかりサポートしてまいりますので、ご協力をお願いしたいと思います。どんな些細なことでも結構です。

広野保育園：きょうだいがいる場合の同一保育園への入園についてですが、きょうだいを別々に通わせると、送迎や行事の日程調整などが大変です。どの程度の世帯が第1希望以外の園に入園しているのか、また第1希望の園に入れなかった理由は、入園希望者の人数と人員配置のバランスが合わなかったからなのかということを知りたいです。小学校の学区から入園先を考える保護者も多いので、ぜひ第1希望の園に入れるようになると嬉しいです。

市長：そうですね。バラバラの園になると本当に大変になりますから、伊東市として、やはりきょうだいはできる限り同じ園になるように配慮しています。細かい数字は今手持ちがないので、後程ご報告させていただきたいと思います。いずれにしましても、負担を軽減するというのが第1の支援の目的でありますので、しっかりと体制づくりをしていかなければいけないと思います。ただ、物理的にどうしても人気の園があって、定員もあるので、100%ご希望に沿えるとは言えませんが、伊東市の今の運用としては、極力きょうだいが一緒になれるように配慮しています。

つくし保育園：延長保育についてですが、会長や副会長が集まって話をした時に、延長保育を利用しているという親が少なかったです。市は実際にどの程度の親が延長保育を必要としているか、ニーズ把握はできているのでしょうか。もしできていけば来年度の要望項目から外せると思います。長時間の延長保育が必要ない社会になるのが本当は一番で、延長保育を必要としない働き方ができれば一番ですが、延長保育がある保育園が増えてくると、働き方も変わってくるのではないかと思います。

市長：具体的な数字が手元にありませんが、そういったニーズ調査を行っていただければ、そのデータに基づいて対応できるような体制作りをしていく、もし仮にまだ十分把握がしきれてないということであれば、まずその把握を行っていきます。市として政策を行うに当たっての重要なデータの一つとして皆さんのお声を伺いたいと思っています。細かいことは追ってご報告させていただきます。

さくら園：上の子が吉田幼稚園に通っていましたが、吉田幼稚園には延長保育がなく、保育園は大体延長保育があつて、そちらに行かれる方が非常に多い状態でした。今はさくら園の延長保育を利用していますが、大変ありがたいです。幼稚園でも延長があるところはありますが、幼稚園と保育園で差が顕著に出ていると感じています。

市長：実は幼稚園は幼稚園、保育園は保育園の特性があつて、それに基づいて延長というものが設定されているのですが、伊東市はどのような家庭環境のお子さんであっても等しくニーズに応えられるようにということで、公立も今こども園化を進めています。私立は川奈で1件こども園化されていますが、公立はまだされていません。こども園化することによって、例えば幼稚園ではこれまでは延長保育がなかったという問題も、こども園になれば解決ができると考えています。今着々と進めていますので、もう少しだけお時間をください。

つくし保育園：保育園におけるICTの活用についてですが、今公立保育園では、スマートフォンのアプリ「コドモン」と「マチコミ」の両方を利用して、入園や退園の手続などをしてしていますが、連合会の中で話を聞くと、保育園によってできることとできないことのばらつきがありました。同じ伊東市で子どもを育てているのに、預けている保育園によって全然やり方が違うというのはどうかと思っていて、その話をしている時に、保育士の方々が研修時間を設けたり、覚えたりするのもすごく大変で、今一生懸命やっているところですよという話も伺いました。ぜひ、頑張ってもらえたらと思います。

市長：保育園の先生も忙しくて、時間が取れない中で研修を受けていただいて、本当にありがたい限りです。何とか様々な方法を駆使して、各園で良いところを統一できるように、先生方とタッグを組んで進めていきたいと思えます。

幼児教育課：きょうだいの同一保育園への入所の状況についてご説明します。今年入所した令和7年度の入所申込みの実績を申し上げますと、令和7年度に新規で入所した方が140名ほどいらっしゃいます。そのうち、きょうだいで同時に申込みをした世帯が14世帯ありまして、その14世帯はすべてきょうだいと同じ園に入所しています。また、元々きょうだいの上のお子さんが入所している世帯で、新たに下のお子さんの申込みをされた方が29世帯ありまして、その結果、きょうだいと同じ園になったのが22世帯、別々の園になってしまったのが7世帯になります。理由は様々ですが、クラスの利用定員が空いていない、あとは公立ですと0歳児クラスがないので、自ずと別の園を選択していただくしかないとい

うこととなります。

市長：延長保育のニーズ把握はできていますか。

幼児教育課：アンケートの中で、そういったご意見をいただくことはありますが、延長保育のニーズ把握のための調査はしたことがありません。

市長：基礎データとして市で把握していくことも大切だと思うので、そういったニーズの調査をお願いします。

玖須美保育園：保育園の準備物についてですが、規格外の袋類を使用できることが保護者に伝わっていないので、ホームページなどで明記しても良いのでしょうか。説明会に子どもと参加するとどうしても聞き漏らしてしまいます。言葉だけの説明事項はできるだけ減らし、ホームページなどにあらかじめ書いておいてほしいという要望がありました。

市長：分かりました。対応するように担当課に伝えたいと思います。

玖須美保育園：保育士の確保についてですが、若手の離職防止は全力で取り組んでほしいと思います。給与アップと風通しのよい職場作りに努めてほしいです。

市長：はい、おっしゃるとおりです。私は就任した時に訓示をさせていただいて、もう誰一人嫌になって辞める職員は出したくない、そのためにしっかりと働きやすい職場環境作りをしていきますと宣言させていただきました。この点については、私としても非常に心が痛い課題となっています。ここで働いて良かったと全員が言っていたような環境作りをしていかなければ、最終的には子どもたちにも影響が出てしまう恐れがあります。子どもたちを安全に安心して健やかに育てられる環境作りのためには、まず職場環境をしっかり整備して、働きやすい環境をつくるということが必ず重要になってくると思います。そこは全力を挙げて取り組んでいきたいと思います。

富士見保育園：富士見保育園の駐車場についてですが、砂利が多いのと、風が強い日は砂が目に入ってしまって痛いです。財産区の所有で改善が難しいとのことですが、協議をしていただきたいです。また、玖須美保育園については、駐車場が園から離れていて、仕事に遅れてしまうことがあったということだったので、そこも検討していただけたらと思います。

市長：この点については、これまでもご要望いただいていますので、安全のためにしっかりと整備ができるように引き続き協議をしていきたいと思えます。玖須美保育園は私も娘を一時預かりに預けていまして、今日も朝送ってきましたが、道が危ないですね。保護者の皆様のご協力があったり事故なく今までできていますが、いつ事故があってもおかしくないということを実感しています。安全に通園できる環境作りは、より一層力を入れてやっていきたいと思えますので、ご不便をお掛けして申し訳あ

りませんが、今は少しご容赦いただいて、何とか事故が起きないように、一丸となって対応を考えていきたいと思えます。

会長：宇佐美保育園についてですが、今後のことについて1月20日に説明会を開いていただきまして本当にありがとうございました。説明会を受けて、本日付で父母の会から全家庭向けにWeb回答付きのアンケート用紙を配布させていただきました。期限が2月6日になっていますが、理事会で共有して市に提出させていただきたいと思えます。1月27日に幼児施設連絡調整協議会の開催を予定されていると思えますが、私もお声掛けをいただきましたので、その日までいただいた意見に関しては、当日持っていったらと思えます。先程2月6日と締め切りを示しましたが、締切後の意見もしっかりと受け付けてお伝えしたいと思えますので、バラバラになってしまうかもしれませんが、市でも預かっていたらと思えます。今手元に4件の意見がありますので、この後お渡しさせていただきます。先程市長から他の園もこども園化するというお話がありましたが、どのように進めていくのでしょうか。

市長：宇佐美保育園については耐震性に問題があるということで、長年にわたり対策についてご要望をいただいています、その間、十分な対策ができていなかったことについては、トップとしてお詫びを申し上げます。そうした中でも、やはり1日でも早く安心な環境にということで、一昨日宇佐美保育園父母の会の皆さんとの話し合いの場を設けさせていただきました。今までは、決まったことを事後報告しているように見えてしまっていて、「今更何を言っても仕方がない」、「知らないうちに決められている」と誤解を与えてしまいかねないような運用になってしまっていました。今後はそういったことがないように、しっかり逐一情報を皆さんに発信しながら、皆さんと一緒に、子どもたちにとって一番良い保育環境を考えていきたいと思っています。また、最後にご質問がありましたこども園化については、伊東市としては、幼稚園・保育園を一体化した認定こども園化を、全市を挙げて進めていくという方針で動いています。その最初が宇佐美保育園と宇佐美幼稚園の認定こども園化ということです。

会長：こども園化を進めるに当たって、保育士同士の風通しの良さ、職場としての風通しの良さという話もありました。やはり保育士と幼稚園の先生で人事交流が必要になってくると思えます。もう話を進めていっちゃるかもしれませんが、考え方の違いや子どもに対する接し方の違いなど、細かな違いが多くあると思っていて、それが風通しや人間関係の悪化につながってしまうと、子どもたちが一番影響を受けるし、親も困りま

す。せっかくこども園という良いものができて、通わせづらいということになってしまっただけでは元も子もないので、しっかりと職員の方々と話し合っ、すり合わせをしていってほしいと思います。また、施設の話に戻りますが、小中学校統合の話があった時に、パブリックコメントを集めたと聞いていますが、小中学校統合は保育園に通っている子どもたちの将来にも関わる話なのに全く知らなかったです。子どもは成長するにつれて通う施設が変わっていくので、いろいろな世代の家庭に意見を聞くならちゃんと聞く、聞かないなら聞かないというように、はっきりしていただけたら嬉しいです。「私は知らなかった」ということがないように、意見集約の仕方をぜひ考えていってほしいと思います。

市長：情報発信は市の課題になっています。行政としては、あらゆる手段を使って発信をしたから大丈夫だろうと思いがちですが、やはりなかなか伝わりきらないです。特に小さいお子さんを育てている環境だと日々戦争状態ですよ。もう忙しくてスマートフォンすら触れないという状況があるかと思います。でも学校の統廃合の話は直接将来に関係しますよね。将来対象になる皆さんの声もすごく重要になってくると私は思っています。当然今通っている方、通い終わった方の声も非常に重要です。皆さんにとって一番良い形は何かという視点で物事を進めなければ、絶対に上手くいかないと思います。貴重なご意見をいただきましたので、小中学校の統廃合についても、保育園父母の会の皆さんにしっかりと情報が伝わるように、少なくとも会長の皆さんにはお伝えできるように、担当に指示を出します。もし可能でありましたら、ここにいらっしゃる皆さんを中心に、そういった情報を周りの方にもお知らせいただきますと、漏れなく情報を伝えることができると思いますので、ご協力いただけますと大変ありがたいです。

会長：父母の会の会長はそういったことのためにいると思いますので、ぜひお声掛けいただければと思います。

さくら園：今の話に関連して、幼児世帯に情報が伝わっていなかったというのは、保育園が幼稚園と違って教育機関と分断されているという組織的な、構造的な問題があると思います。今後こども園化が推進されていくのは、それに対してとても良いアンサーになっていると思っていて、情報が分断されている教育機関というものをちゃんと統合させていく取組はもっと強力に進めていくべきだと思います。

市長：保育園にも保育指針というものがあって、教育も一体的に行うという指針があります。制度的に言えば、確かにおっしゃるとおり教育機関という区分けではありません。本当にこれは歯がゆいところで、保育園の先

生も一生懸命子どもたちの学びをやってくださっていますが、制度的に見てしまうと、そういうふうに評価されにくいという状況があります。私はこの認定こども園というのは、教育という観点で言えば、今まで保育園の先生がしっかりと教育も支えてきてくださったことを制度的にもしっかりと担保できるという意味で、非常に重要な取組の一つだと思っていますので、これはしっかりと進めていきたいと思っています。そういった制度的な壁をクリアすることによって、よりスムーズに事が運ぶこともあります。皆さんに情報が伝わりやすく、そして子どもたちがどのような家庭環境であっても、教育がしっかりと保障されて、安心して預けていただけるようなこども園作りをしていきたいと思っています。

つくし保育園：子育て支援センターの就園児の利用についてですが、未就園児の下の子がいて、保育園に通わせている上の子がいると、一緒に遊べないという問題がありまして、スペースの狭さなどいろいろな課題があると思いますが、もう何年もずっとそのままの状態が続いています。上の子はいっぱい思い出を作って楽しかったのに、下の子は上の子と一緒にには行けない。その時ちょうどコロナ禍だったので、遊び場がなくてすごく困っていました。そういう時に、利用できないと言われて絶望感がありました。子育てをしている時は、子どもと自分しかいない中で、世界を広げたいと思った時に、やはり子育て支援センターのようなところがすごく大事な場所になると思いますので、もう少し検討いただければと思います。

市長：私は今まで議員として、子どもの成長は早いので早くやってくださいと、同じようなことをずっと議会で言っていました。今度はそれを受ける側になりましたが、その思いは変わっておりません。本当に子どもたちが遊ぶ場所がないということで、特に雨の日に遊ぶところがない。私も熱海の長浜公園などによく行きます。そういった施設が欲しいということで、先程副市長とも話をして、伊東市はしっかりとそういう施設を作ろうと決意を固めました。本当にこれは長年の懸念事項だと思います。年齢によって遊び方が違うということがあり、現状安全に過ごしていただける環境がどうしても作れない状況です。そうは言っても、長期休みの時は特に困ると思いますので、私も1日でも早く改善していきたいと思っています。少し余談ですが、しおさい広場の遊具がなくなったということで、再設置を要望する署名をいただきました。これについては遊具を設置します。まずはそこを第一歩として整備をすることを決めて動き始めています。そういったことを皮切りに、子どもたちが伸び伸びと遊べる環境を作っていきたいと思っています。思いは一緒ですので、アイデアがあればどんどんおっしゃっていただければと思います。前向きな意見は大

歓迎です。

つくし保育園：少し細かいことですが、子育て支援センター以外にも、児童館などの子どもの遊び場がありますが、市長は行ったことがございますか。

市長：あります。

つくし保育園：おもちゃがすごく古くないですか。電池がなくなったり、欠けていたり、子どもが1回それでケガをしたことがあります。結構深刻だなと思います。

市長：そうですね。そこに今まで予算が割けなかったことで、私も議員時代にすごく歯がゆい思いをしていました。やはり子どもたちが安全に、より良いもので遊べる、学べる環境を作らないと、このまちは駄目になると思っています。ここはしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

つくし保育園：子どもたちの遊び場について考えてくださるということですが、特に屋内の遊び場が伊東市には全然なくて、子どもたちと遊びに行こうとなった時に、雨が降っていると沼津や三島、小田原の商業施設に山を越えていくことになっていきますが、そうするとそこで食事などをしてしまうので、伊東市にお金が落ちていないのではないかと、そちらも心配になってまいります。ぜひ、企業を誘致して屋内の遊び場を作っていただくとか、今ある商業施設の空いているスペースに作っていただくというようなことができれば嬉しいです。

市長：そうですね。本当に私も欲しいと思っています。既存の商業施設を利用する方法もありますし、場合によっては児童館を建てるという方法も考えられると思います。これは市民の皆さんにとってプラスになるだけでなく、観光政策にもつながると私は思っていますので、何とか任期中に目途を立てたいと思っています。

つくし保育園：もし伊東市で子どもを育てている保護者に何か聞きたいことがあれば、それこそICT活用で、LINEでアンケートを送るなどしていただけたら協力できると思います。

市長：分かりました。検討させてください。

会長：今回たくさんの方の要望がありますが、前年を踏襲しているものや今までの懇談会の内容を参考にしたものが多いです。何年にもわたって要望しているものが結構ありますが、こちらでもう要らないと判断できれば、次回の項目から削除できますので、ぜひ続報をお待ちしております。遊び場の話に戻りますが、実はこれが今年度の一番の要望です。今年の夏はととても暑くて、外に出られませんでした。保育園でも、子どもたちは水遊びができず、プールのみとなり、保育士の方も子どもたちも耐え忍んだ夏という感じだったと思います。ですので、屋内施設を本当に早急に

整備していただきたいと思います。それともう一つ、父親の支援や交流の場をぜひ作っていただきたいと思います。今「紬咲（つむぎ）」という団体の方々が活動されているということは把握していますが、パパと子どもの関係が家庭の中でネックになっているところがあるのではないかと思いますので、ぜひ手を差し伸べてほしいです。

市長：私も胸を打たれました。やはりお父さんの支援も非常に重要だと思います。そういった事業をしっかりと作り上げて、私も率先して参加をしていきたいと思いますので、こういう支援があったらいいとアイデアがありましたら、ぜひ教えていただければと思います。

つくし保育園：私は今日、去年の出生数を聞いてびっくりしましたが、市長はご存知ですか。

市長：速報で158人です。緊急事態だと思っています。

つくし保育園：とんでもない数字だと思います。子育てをうたう前にそこをどうにかした方がいいのではないかと正直思いました。何か対策は考えているのでしょうか。子育ての負担の面に目が行くのではなく、楽しいし成長できることがいっぱいあるので、そういうことが味わえるような環境があれば最高だと思います。また、この間リノベーションスクールに参加させていただきましたが、子どもの声とお母さんたちの笑顔で賑わっているまちというのがすごく印象深かったです。

市長：本当におっしゃるとおりですね。まずは子どもたち、お母さん、お父さんも含めて、子育て世代の皆さんが笑顔にならなければ、まちは元気にならないと私は思っています。一昨年が190人で、去年は158人。やはりしっかりとサポートする、負担をとにかく軽減して、地域みんなで子どもを育てていく環境を作らなければ、この問題は解決しないと思います。人口が減っていくのは仕方がないとお考えになる方もいますが、私はそうは思っていないで、全国を見れば人口が増えているところもあります。ですから、選ばれる伊東市にならなきゃならない、そのためには今まで他がやったことをやっているだけでは絶対に駄目だと思っています。私が職員の皆さんに言っているのは、失敗したら全部私が責任を取るから、市民の皆さんに寄り添って、市民の皆さんにとって一番プラスになることをやってくださいということです。財政的な優先順位は当然付けなければいけません、できる方法はないかと調査をしてもらっていますので、できるところからやっていきたいと思っています。158人というのは非常にショッキングな数字で、まずはこの数字を下回らないようにしたいと思いますが、率直に意見をお伺いしますけれども、どうすれば増えていくと思いますか。

さくら園：私は貸別荘の仕事をしていますが、熱海と伊東を比較すると、伊東は子育て世代が泊まる率が高いです。なぜかという、屋外で遊ぶ場所があるからです。つまり、子育て世代としての魅力はあるわけです。そうだとしたら、観光客に市民になったら得られるメリットを伝えることができればいいのではないかと思います。例えば、市民だったら何かが安くなるとか。でもそれだけでは移住はしてこないと思います。やはり仕事がなくはいけない。だから伊東で仕事ができる環境が必要です。今関東周辺に人が集中するのは、仕事があるからです。その仕事を伊東に持ってくることであれば、人が来てくれる。難しいとは思いますが。

市長：仕事ですよ。一方で人手不足もあって、マッチングが上手くいっていないということもあります。

つくし保育園：そもそも出生数が減る原因はなんでしょう。

市長：私が考えるそもそもの原因は、子どもを産むとか、結婚することのメリットを感じていないからではないでしょうか。

つくし保育園：伊東市にはその年代の人はいるのでしょうか。

市長：絶対数が少ないということはあると思います。高齢化率が44.5%ですから、65歳以上の人が半分で、子どもの数は6,000人位しかいません。国全体で、2人の現役世代で1人の高齢者を支えるということで、大変だと言っていますが、伊東市は1人で1人を支えなければならない状況に突入していますので、この現役世代の人をどうやって増やしていくかというのが重要です。例えば、私は伊東市がベッドタウンであっても良いと思っていますので、仕事にしやすい環境を作ることも考えられます。財源的な問題もありますので、実現できるかはこの場では断言できませんが、これまでなかった取組をして、子育て世代の方に選んでもらえるまちにしないとやっていけないと思います。

さくら園：市長の仕事に通りやすくという話を聞いて着想を得たのは、伊東線の踊り子号は日中しか走っていませんが、朝晩運行できたら通しやすいのではないかと思います。市から提案できないものではないでしょうか。

市長：提案はできます。ただ、JRも民間企業として採算を考える必要がありますので、市としてニーズがあるかどうかは調査していきたいと思っています。

さくら園：ぜひ宇佐美には止まってほしいです。宇佐美は市外から来てくれている現役世代の方が比較的多いイメージがあるので、そういった意味でもぜひ実現できたらいいなと思います。

会長：出生に関係するかは分かりませんが、子どもたちに伊東市に戻ってきたいと思ってもらえるようにしたいです。私は、本当は子どもが苦手で、

子どもを持つことを考えていなかった時期もありましたが、教員免許を取るために教育実習に行った時に、子どもたちの笑顔に触れて、やはり子どもが欲しいと思いました。また、私は公園がすごく好きなのですが、「子どもとここで過ごしたら絶対楽しい」というような経験を、今から結婚される方やもう結婚してらっしゃる方、そして子どもたちにもさせてあげてほしいと思います。公園整備について、おそらく次に話に上がるのはスケボーかと思っています。

秘書広報課長：それでは、お時間になりましたので、以上をもちまして懇談会を終了させていただきます。閉会に当たりまして、市長よりご挨拶を申し上げます。

市長：本日は貴重な時間をいただきありがとうございました。私もすごく新しい気づきがありましたし、皆さんにとっても少しでも有意義な時間になったのであれば、本当にありがたいなと思います。今後とも、こういった機会を持って皆さんと一緒に話をして、より良い政策を実現していくことが重要だと思っています。我々行政も皆さんに寄り添うという姿勢ではありますが、職員が数百人しかいない中、6万人の皆さんのサポートをするとすると、行き届かないところがどうしても出てくるかと思えます。父母の会の皆さんのお力もお借りしながら、皆さんが何を望んでいるのか、どうすれば良くなるのか、市としてもアンテナを高くしながら、より良い子ども・子育て環境を作っていければと思いますので、今後ともよろしくお願ひします。本日はどうもありがとうございました。

秘書広報課長：以上をもちまして、令和7年度市長と伊東市保育園父母の会連合会の皆様との懇談会を閉会いたします。